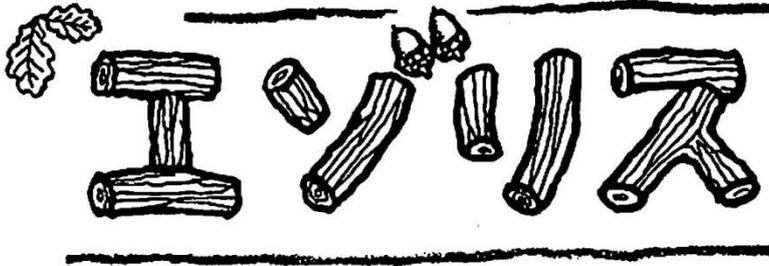


エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。



☆「会報100号！感謝」

エゾリスの会会長 三日市則昭

エゾリスの会は、1986年（昭和61年）4月に「エゾリスをはじめとする小動物と人間が楽しく触れ合える環境づくりと自然教育の場づくりを目指し」思いを共有する理想に燃えた（？）面々で発足しました。

会の継続性を保つべく「会報」の発行を事業計画に盛り、第1号エゾリスの会報「エゾリス」を同年5月20日に出すことができました。

初代会長藤巻裕蔵氏の挨拶に始まり、藤巻会長が当時畜大の教授を務めていた関係から、強引に畜大生の伊藤育子さん（現里山プロジェクト責任者）を会報の編集者に抜擢（無理強いしました）して、女子学生の新鮮な感覚で発行することができました。

伊藤さんが横浜市に就職してからは、私等が編集を行っていましたが、年とともにマンネリ化に悩んでいたところに、伊藤さんが横浜市から帯広市へUターンして、編集に参加することになり、紙面も活性化され一安心。

その後、私が一人で編集する期間が訪れ、またも危機が到来！

一人悩む時期（？）が訪れましたが、2代目の堀之内会長から「続けることが大事だよ」との言葉受

けて発行を続けていきましたが、私自身の行いがよいことが幸いし、救世主が現れました。

坂村堅二さん。ICレコーダーを例会や活動日に持参しインタビューを行い紙面づくりに奮闘しています。98号から読みやすく、ビジュアル的な紙面に驚いたと思いますが、彼の努力の賜物です。

また、紙面に可愛いエゾリスのイラストや四コマ漫画が載っていますが、裏会員67号の江渡千恵さんが腕をふるっています。

このように、27年間欠かさず発行することができましたのも、その時々原稿の依頼に快く受けていただいた多くの会員の皆様の協力等手作り感覚で作成できたからと思っています。ほんとうに感謝申し上げます。

今後とも会報「エゾリス」の発行のご協力よろしく願いいたします。



☆全ページカラーです！ これを見ればエゾリスの会がだいたい分かる？かもしれない。



モニ1000 修行の道...何回辿ったことだろう。



あの時私は若かった!!

# 写真集 エゾリスの会の四季



春...



夏...





# 秋・・・



# 冬・・・



# エゾリスの会、写真集番外編



タカの食事跡!!

影の支配者!!

エゾリスの巣です!!

エゾリスの巣です!!

テーブルを作る!!

テーブルに座る!!

# エゾリスの会のこれから、、、 会員、新春座談会で大いに抱負を語る。



間伐した樹をホダ木に菌を植え付けたい。  
キノコをもっと取れるように。



カブトムシ、ウチダザリガニなど外来生物を除去しつつ楽しめることをしたい。

面白いことをやりたい。  
カナヘビ探し。



1日かけて帯広市全域のエゾリス調査の実施。  
冬の動物の足あとをひたすら追いつけてみたい。

リスやネズミとコミュニケーションが取れる笛のようなものをつくりたい。



帯広の森の水辺の底生動物調査をやりたい。

観察しやすく、(巣箱をかけても)生息影響に対して影響の少ない場所に巣箱をかけて、モニタリング調査をしたい。



シニア世代の来やすい活動を



トンボやカエルが来る湿地(池)ピオトープを作りたい。外来種オオアワダチソウの群落を減らしたい。



エゾリスの会を畜大に広めます。  
短時間でも参加しやすい活動とその広報をやります。

子どもの来やすい活動やしくみを。

エゾリス1頭をひたすら追いつける調査をしたい。

ちゃんとした写真展・講演会を開催したい。PRの場にしたい。



今、手入れしている部分を早く終わらせ、他の箇所も作業を始めたい。



みんな勝手バラバラだ。まとまりがないが、今年も楽しみながらもしっかりやりたいという意気込みは伝わった新年会でした。



# フレイバック！写真で見るエゾリスの会の歴史

1980年代



農高にて観察会（1986.8）



木のフェス（1986.9）



緑ヶ丘公園樹木調査（1988.1）

野生小動物と人との共存できるまちづくりをという目的からエゾリスの会が設立。この頃の活動場所は緑ヶ丘公園が主でした。十勝管内各所で観察会や調査を実施。初代会長は帯広畜産大学名誉教授の藤巻裕蔵さん。

## エゾリス

エゾリスの会々報

No. 1

1986. 5. 20.

発行、エゾリスの会（〒080 帯広市西18条南 2丁目9 Ⅱ33-4223）

### エゾリスの会の発足にあたって

藤巻裕蔵

私たちが住んでいる市や町が大きくなるにつれて生活も多様化し、便利になってきた。しかし、その一方で身近にあった自然がだんだんと遠のいていってしまっ。帯広市とその近郊の町でも住宅地が広がり、しばらく見ないうちに種子がすっかりかわってしまふほどである。私は、このような街づくりを見ていて、ときどきこれだけのだろうかと思うことがある。

本州のある都市での調査結果であるが、自分が住んでいる地域で緑地率が60%を割ると人々は周辺の緑豊かな所へかけるようになり、30%近くになると泊がけででかける人が多くなるといふ。私たち人類も、ほかの動物と同じように非常に長い時間をかけていろいろな生物にとりかまねながら進化してきたわけ、いくら文明が進んでこのような生活を捨てていくことはできない。無意識のうちにも「緑」のある生活を求めるのも、私たちがこのような動物の一員だからであろう。都市の中で私たちが生活しやすくなるのは大変結構なことであるが、ただ便利さだけではなく、身近にもっとういの源となるものが必要かと思ふ。



会報第1号！

野生動物にとっては、私たち以上に「緑」が必要である。しかし現在の街づくりでは私たちの生活領域が広がるにつれて、これらの動物の生活領域が狭くなっていくばかりでなく、その結果として私たちの身近なところから「緑」が失われている。このような点から見ると、私たちの周囲に野生動物が住めるような環境を残したり造りあげることが、ある面では私たちの生活環境を快適にすることにも結びつくことになる。

帯広市を緑豊かな街にしよう、その一つの方法として身近なところに野生動物と共存できるような空間をつくらうというのが出発点である。「緑ヶ丘公園にエゾリスを」というのは、このような街づくりを実現するための活動のごく一部分で、身近なところで野の花や野鳥を楽しむ環境をつくらうというのが「エゾリスの会」の大きな目的である。



初代会長 藤巻裕蔵さん

1990年代

90年代に入ると次第に主な活動場所を帯広の森に移します。講演会開催、ログハウスの建設などがありました。1991年より帯広市から「帯広の森内の小動物生息環境調査」を受託し、森と人間との関係を見つめ続けています。



グリーントーク「森との語らい」開催。ゲストC.W.ニコル氏等（1991.6.）



写真集「エゾリスの四季」発行（1995.12.）



帯広の森に観察小屋（ログハウス）を建てる（1991.6）



帯広の森で植樹後記念撮影（1995.10）



夏の観察会（1998.8）

観察会はその後も季節を問わず続けられました。98年に「里山をつくろうプロジェクト」が始動し、帯広の森での活動は調査だけでなく、間伐や草刈、様々な森づくりに必要な手入れを行っていきます。それに伴い、お楽しみ♪も増えてきます。



冬の観察会（1998.2）



間伐材で炭焼き（1999.10）

2000年代

21世紀になり、「全国雑木林会議」に会員が毎年参加するなど、里山づくりを学びながら、実践していく活動が増えていきます。地道な活動が評価され賞もいただきました。

2008年からは日本自然保護協会から「モニタリングサイト 1000（里地調査）」を受託し、森の成長や動植物の生息状況の変化を100年間見つめていこうという無謀？ともいえる取り組みを始めました。



十勝環境特別賞受賞（2004.11）  
右、故堀之内清志さん（2代会長）  
左、三日月則昭（現会長）



第29回前田一歩園賞受賞  
（2011.10）



エゾリスの会発足25周年記念事業  
「阿部永先生、鮫島淳一郎先生と車座談義」  
（2012.2）



モニ1000チョウ類調査



里山プロジェクトでの間伐作業

会の発足から28年、エゾリスの会は環境系まちづくり団体として、これからも自然環境や地域に生息する動植物に敬意を払いながら活動を続けていきます。

No. 12

No. 11



**裏会長**  
どんな時でも、ポーカーフェイス。全マが融。

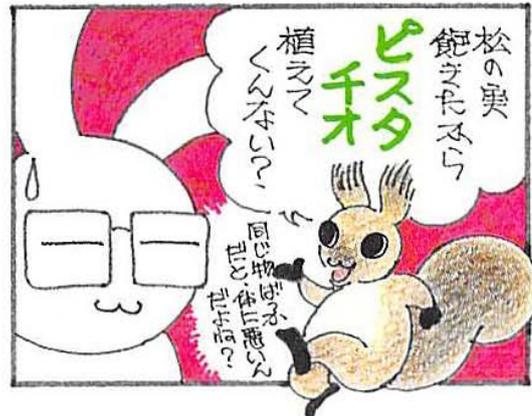


**クマ田アレクセイ**  
古書店経営、テニスとマラソンが趣味。



**エゾリス**  
帯広の森の真の支配者。怒るとコワイ。

by 裏会員67号



**エゾリスの会 会報100号** 発行日: 2014. 2. 25  
発行 エゾリスの会 (事務局)  
〒080-0027 帯広市西 17条南 3丁目 6-14  
☎0155-33-4223  
E-mail mikka-1@octv.ne.jp  
非公式ブログ <http://d.hatena.ne.jp/noken/>

**編集後記**  
フルカラーの会報はいかがでしたでしょうか? エゾリスの会の歴史や未来、四季の活動や雰囲気が白黒の時よりもより伝われば良いなと思っています。何か感じるものがあつたならば、連絡ください。森で一緒に汗をかいたり、お茶したり、楽しみましょう! (さか)